

市内遺跡試掘確認調査  
中近世城館確認調査（5）  
長者屋敷官衙遺跡

市内遺跡発掘調査概報11

2018

中津市教育委員会



# 例 言

一、本書は大分県中津市教育委員会が2017年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の調査概報である。

一、調査は2017年度国宝重要文化財保存整備事業および2017年度大分県文化財保存事業費の補助を受けて実施した。

一、調査主体 中津市教育委員会

調査責任者 廣畑 功 (中津市教育委員会教育長)

調査指導 中村 修身 (北部九州中近世城郭研究会名誉会長)

宮武 正登 (佐賀大学教授)

小柳 和宏 (大分県立歴史博物館長)

三重野 誠 (大分県教育庁文化課参事)

調査事 高尾 良香 (中津市教育委員会社会教育課長)

大森 健 ( 同 管理・文化振興係主幹)

磯貝 奏 ( 同 管理・文化振興係主幹)

湊 恵 ( 同 管理・文化振興係員)

陽 麻里奈 ( 同 管理・文化振興係員)

渡邊奈津子 ( 同 管理・文化振興係員)

調査担当 高崎 章子 ( 同 文化財室長兼歴史民俗資料館長)

花崎 徹 ( 同 文化財係主幹)

浦井 直幸 ( 同 文化財係副主任研究員)

丸山 利枝 ( 同 文化財係主任)

三谷 紘平 ( 同 文化財係主任)

衛藤 美紀 ( 同 文化財係主事)

曾我 俊裕 ( 同 文化財係主事)

末永 弥義 ( 同 文化財係嘱託)

一、市内遺跡試掘確認調査は、浦井・丸山・衛藤・末永が、中近世城館の確認調査は浦井が、長者屋敷官衙遺跡の調査は丸山が行った。

一、本書の執筆は第1章、第2章1、(4)、第3章を浦井が、第2章(1)①・②、(2)、(5)、(6)、(7)を末永が、第2章(1)③、(3)を衛藤が、第4章を丸山が行った。

一、遺構の実測、写真撮影などは調査担当者が行った。

一、本書の編集は、浦井が行った。

# 目 次

## 目次

第1章	遺跡の位置と環境	1
第2章	市内試掘確認調査	
	1. 今年度の調査概要	3
	(1) 沖代地区条里跡	4
	(2) 中津城下町遺跡	6
	(3) 原口遺跡	7
	(4) 柳ヶ迫池東遺跡・勘助野地遺跡	9
	(5) 田代遺跡	11
	(6) 三口遺跡	12
	(7) 定留遺跡	12
第3章	中近世城館確認調査	13
第4章	長者屋敷官衙遺跡	17
	報告書抄録	

## 図 版 目 次

第1図	中津市内主要遺跡分布図	2	第14図	三口遺跡調査区位置図	12
第2図	試掘確認調査位置図	3	第15図	定留遺跡調査区位置図	12
第3図	沖代地区条里跡45次調査区位置図	4	第16図	中近世城館報告箇所位置図	13
第4図	沖代地区条里跡金手地区調査区位置図	4	第17図	耶馬溪町大字大野城ヶ平位置図	14
第5図	沖代地区条里跡46次調査区位置図	5	第18図	山国町守実字伊勢山位置図	14
第6図	沖代地区条里跡46次トレンチ配置図	5	第19図	大字中原字上屋敷位置図	15
第7図	新魚町地区調査区位置図	6	第20図	耶馬溪町大字山移字鷹丸位置図	15
第8図	中津城下町遺跡36次調査区位置図	6	第21図	大字永添字中尾前他位置図	16
第9図	原口遺跡調査区位置図	7	第22図	山国町大字中摩字鳶ヶ城位置図	16
第10図	原口遺跡トレンチ配置図	7	第23図	長者屋敷官衙遺跡正倉院遺構分布図	19
第11図	柳ヶ迫池東遺跡・勘助野地遺跡調査区位置図	9			
第12図	柳ヶ迫池東遺跡・勘助野地遺跡トレンチ配置図	10			
第13図	田代遺跡調査区位置図	11			

## 写 真 目 次

写真1	沖代地区条里跡45次トレンチ	4	写真17	柳ヶ迫池東遺跡他2トレンチ作業風景	9
写真2	金手地区トレンチ	4	写真18	田代遺跡1トレンチ	11
写真3	沖代地区条里跡46次3トレンチ	5	写真19	田代遺跡1トレンチ土坑	11
写真4	沖代地区条里跡2トレンチ	5	写真20	田代遺跡3トレンチ	11
写真5	沖代地区条里跡3トレンチ土層	6	写真21	田代遺跡4トレンチ	11
写真6	新魚町トレンチ	6	写真22	三口遺跡Cトレンチ	12
写真7	中津城下町遺跡36次トレンチ	6	写真23	定留遺跡トレンチ	12
写真8	原口遺跡1トレンチa	8	写真24	字城ヶ平堀切	14
写真9	原口遺跡1トレンチb	8	写真25	字伊勢山堀切状の地形	14
写真10	原口遺跡2トレンチ	8	写真26	字上屋敷横堀	15
写真11	原口遺跡pit5	8	写真27	字鷹丸畝状堅堀	15
写真12	原口遺跡2トレンチ北側東壁	8	写真28	字中尾前他土塁	16
写真13	原口遺跡pit10	8	写真29	字横道堀切状の地形	16
写真14	柳ヶ迫池東遺跡他11トレンチ遺構検出状況	9	写真30	長者屋敷官衙遺跡梁行柱掘り方	18
写真15	柳ヶ迫池東遺跡他17トレンチ土坑半裁	9	写真31	長者屋敷官衙遺跡調査区全景	18
写真16	柳ヶ迫池東遺跡他18トレンチ東壁	9			

## 表 目 次

表1	原口遺跡遺構観察表	7
表2	長者屋敷官衙遺跡調査歴	17



# 第1章 遺跡の位置と環境

## 1. 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万5千人、面積約490km<sup>2</sup>を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

## 2. 歴史的環境

**旧石器時代** 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡（35）や法垣遺跡（19）で発見されている。

**縄文時代** 上畑成遺跡（47）で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡（18）で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡（21）、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が検出され注目されている。

**弥生時代** 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壇墓・住居跡・溝が福島遺跡（25）で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡（28）で検出された。

**古墳時代・古代** 亀山（亀塚）古墳（58）が挙げられるが、調査せず破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀中ごろには山国川に面する勘助野地遺跡（12）で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群（11）が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群（29）、城山古墳群（34）、城山横穴墓群（33）などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡（7）で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡（49）や定留遺跡（51）でまとまって発見されている。古代には7世紀末に白鳳系の相原廃寺（5）が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制（4）が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡（20）が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡（37）、踊ヶ迫窯跡（38）、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては10世紀代の緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡がある。

**中世** 長久寺の田丸城跡（24）など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城（1）が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

**近世** 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632（寛永9）年に完成を見る（2）。1717（享保2）年に奥平氏が入部し、1871（明治4）年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- |              |              |             |             |             |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 中津城跡      | 13. 上ノ原平原遺跡  | 25. 福島遺跡    | 37. 草場窯跡    | 49. 諸田遺跡    |
| 2. 中津城下町遺跡   | 14. 大池南遺跡    | 26. 福島地下式横穴 | 38. 踊ヶ迫窯跡   | 50. 定留貝塚    |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保畑遺跡  | 27. 前田遺跡    | 39. ホヤ池窯跡   | 51. 定留遺跡    |
| 4. 沖代地区条里跡   | 16. 佐知遺跡     | 28. 森山遺跡    | 40. 大谷窯跡    | 52. 天貝川遺跡   |
| 5. 相原廃寺      | 17. 榎遺跡      | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡    | 53. 和間貝塚    |
| 6. 三口遺跡      | 18. 黒水遺跡     | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 田尻大遺跡   |
| 7. 相原山首遺跡    | 19. 法垣遺跡     | 31. 畑中遺跡    | 43. 中須遺跡    | 55. 是則遺跡    |
| 8. 鶴市神社裏山古墳  | 20. 長者屋敷官衙遺跡 | 32. 安平遺跡    | 44. 若旗遺跡    | 56. 全徳遺跡    |
| 9. 坂手隈横穴墓群   | 21. ボウガキ遺跡   | 33. 城山横穴墓群  | 45. 十前垣遺跡   | 57. ガラヌノ遺跡  |
| 10. 弊旗邸古墳    | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群   | 46. 野田遺跡    | 58. 亀山古墳    |
| 11. 上ノ原横穴墓群  | 23. 原遺跡      | 35. 才木遺跡    | 47. 上畑成遺跡   | 59. 石堂池遺跡   |
| 12. 勘助野地遺跡   | 24. 田丸城跡     | 36. 城山窯跡群   | 48. 諸田南遺跡   | 60. 舞手川流域遺跡 |

第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)



## 第2章 市内遺跡試掘確認調査

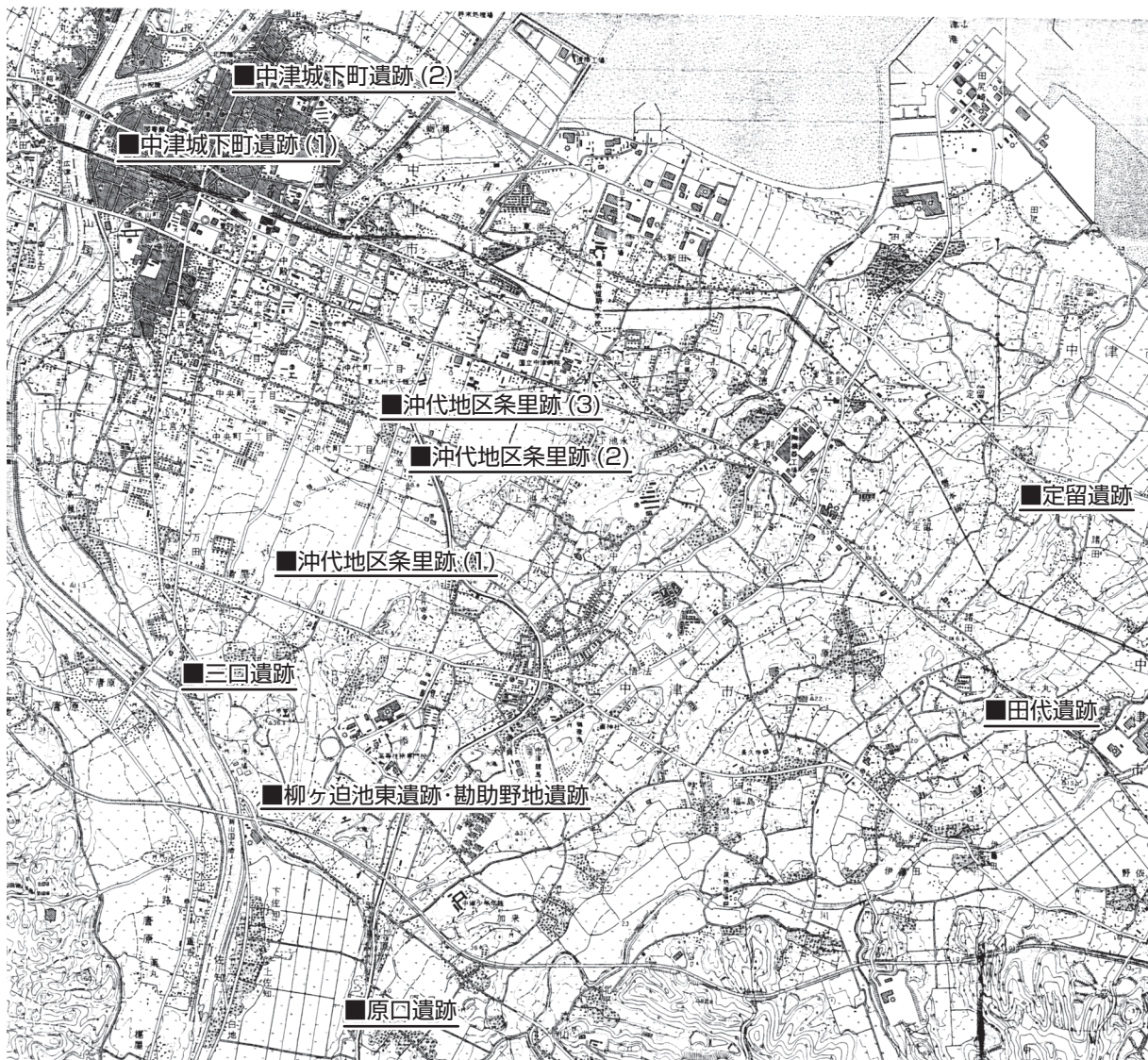
### 1. 今年度の調査概要

平成29年度1月末時点の市内における埋蔵文化財包蔵の照会件数は919件を数える。前年度より62件増加している。文化財保護法93条・94条第1項の届出・通知は189件提出されており、これは前年度から約1.5倍増加した。これに伴い調査件数も増加し、33箇所（前年度比プラス5件）の調査を行っている。

照会対象となる遺跡で最も件数が多いのは沖代地区条里跡で、個人住宅建設が主な工事内容であった。沖代地区条里跡の条里区割は東部と南部に残されているが、それ以外の水田は宅地化が進行している。次に照会件数が多い遺跡は中津城下町遺跡である。これまで同様、古い住宅の建替え、集合住宅の建設が目立つ。

工事は全体的に個人住宅の建設を目的とするものが大半を占める。大規模宅地分譲は少数認められるものの、主体は小規模宅地分譲に移りつつある。太陽光発電関連施設の建設は郊外や山間部を中心として大規模に行われている。

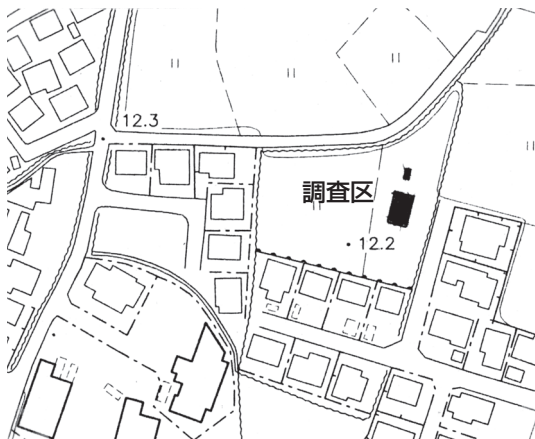
以下、補助を受け調査を実施した8遺跡10調査区について報告する。



第2図 試掘確認調査位置図 (S = 1/50,000)

## (1) 沖代地区条里跡

### ① 45 次調査



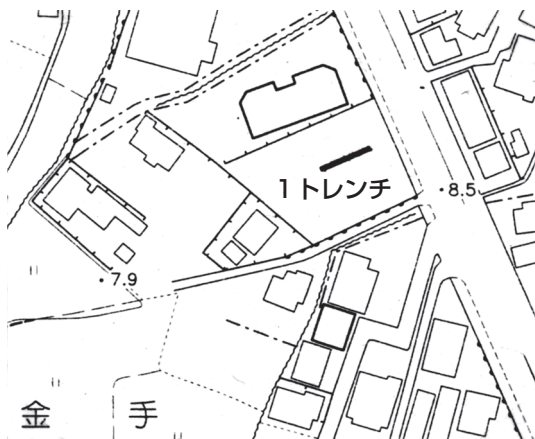
第3図 沖代地区条里跡 45 次調査区位置図  
(S=1/2,500)



写真1 沖代地区条里跡 45 次トレンチ (北から)

平成 29 年 2 月 21 日、中津市大字永添字市木 229 番 2 外にて集合住宅建設に伴う文化財保護法 93 条 1 項の届出が提出された。建築面積は約 266㎡で、深さ 0.75 m の位置に基礎コンクリートを施工するものであった。平成 29 年 4 月 4 日に確認調査を行い、トレンチ 3 本を設定し遺構・遺物の有無の確認をおこなった。現地表から 40cm ～ 60cm の深さの基盤層 (明灰色粘質土～明黄褐色弱粘質土) で遺構検出をし、溝状遺構約 10 条とピット数基を確認し、時期不明の土師器が出土した。このため、建物建築部分を中心に本調査を実施することとなった。

### ② 金手地区



第4図 沖代地区条里跡金手地区調査区位置図  
(S=1/2,500)



写真2 金手地区トレンチ (東から)

平成 29 年 5 月 23 日、中津市大字金手字平ツ丸 10 番 13 にて店舗兼住宅建設に伴う文化財保護法 93 条第 1 項の届出が提出された。建築面積は約 250㎡で、深さ 1.25 m の地盤改良を施工するものである。確認調査は平成 29 年 6 月 20 日にトレンチ 1 本を設定し、遺構・遺物の有無の確認をおこなった。現表土下の造成土・旧表土等を 1.5 m ～ 1.7 m 掘削して灰茶色弱粘質土の基盤層に達したが、明確な遺構は確認されなかった。

(1) 沖代地区条里跡③

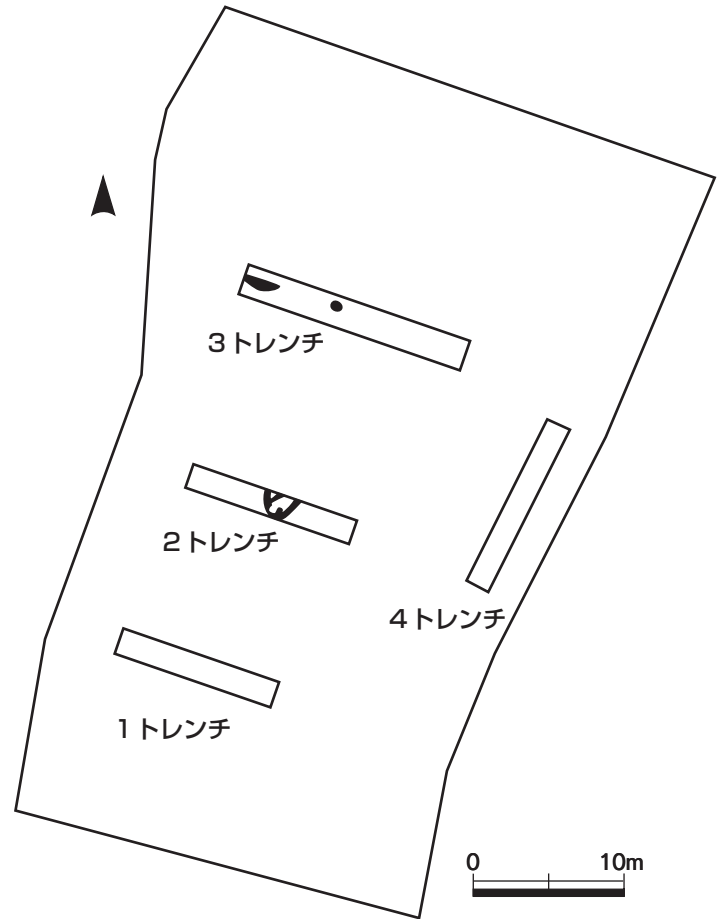


第5図 沖代地区条里跡 46次調査区位置図

平成29年7月27日、中津市沖代町1丁目443番地1外における、宅地造成に伴う埋蔵文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。約2337㎡を分譲し、宅地を9棟、道路を3本建設するものであった。

平成29年8月9日、道路部分に3箇所、宅地部分に1箇所トレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。調査地の基本層序は①・②層表土・耕作土（層厚10～20cm）、③層暗灰黄色粘質土（5～10cm）、④層クロボク（0～10cm）、地山であり、水田層は確認できなかった。遺構は2トレンチで溝状遺構2条、3トレンチで土坑1基（風倒木か）、柱穴1基を検出した。埋土は全てIV層であったが、遺構深度が浅く不明瞭であったため、写真撮影・簡易測量を行い調査を終了した。

なお、遺物は出土していない。



第6図 沖代地区条里跡 46次トレンチ配置図 (S=1/500)

遺構は2トレンチで溝状遺構2条、3トレンチで土坑1基（風倒木か）、柱穴1基を検出した。埋土は全てIV層であったが、遺構深度が浅く不明瞭であったため、写真撮影・簡易測量を行い調査を終了した。



写真3 沖代地区条里跡 46次3トレンチ (西から)



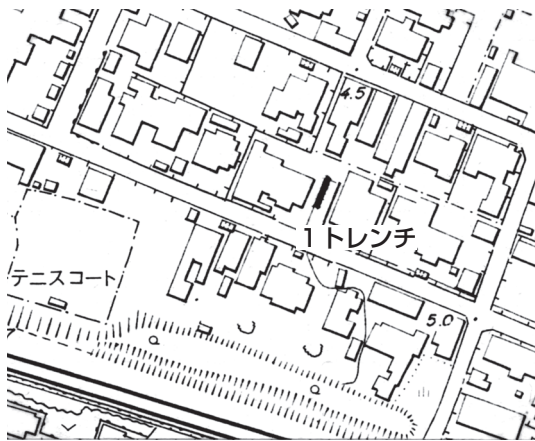
写真4 沖代地区条里跡 46次2トレンチ (北から)



写真5 沖代地区条里跡 46次3トレンチ土層

## (2) 中津城下町遺跡

### ①新魚町 1899



第7図 新魚町調査区位置図  
(S=1/2,500)



写真6 新魚町トレンチ (南西から)

平成29年2月24日、中津市字新魚町1899番にて個人住宅建設に伴う文化財保護法93条1項の届出が提出された。建築面積は約90㎡で、深さ1.25m地盤改良を施工するものである。平成29年4月13日に確認調査を行い、住宅建築予定地にトレンチ1本を設定した。深さ90cm前後で基盤層である黄灰色砂質土層に近代以降の土坑2基が検出されたが、近世の城下町に関わる遺構・遺物は確認されなかった。

### ②36次調査



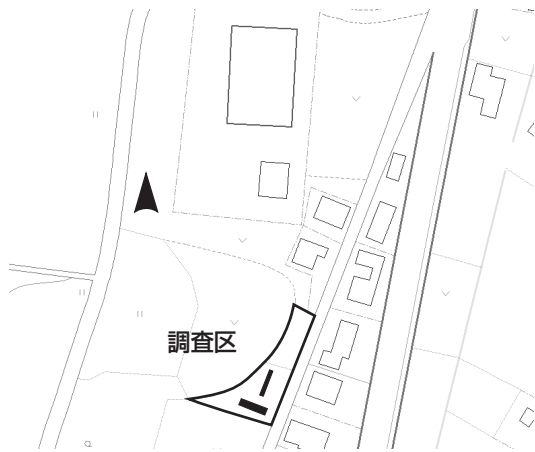
第5図 中津城下町遺跡36次調査区位置図  
(S=1/2,500)



写真7 中津城下町遺跡36次トレンチ (北から)

平成29年4月14日、中津市563-1番付近外にて市道改良に伴う文化財保護法94条第1項の通知が提出された。今年度の工事は延長約57mで、幅4.5mの植樹帯・自転車歩行者道を設置するものである。平成29年5月10日に確認調査を行い、2本のトレンチを設定し遺構・遺物の有無の確認をおこなった。深さ70cm前後で基盤層(明黄褐色砂層)に達し、土坑・ピット等約15基を検出した。このため、工事対象部分について本調査を実施することとなった。

### (3) 原口遺跡



第9図 原口遺跡調査区位置図

平成29年6月22日、中津市三光原口字后ノ池702番1における保育施設建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出された。

建築面積は約283㎡、深度最大8.5mまで柱状改良を施工するものであった。

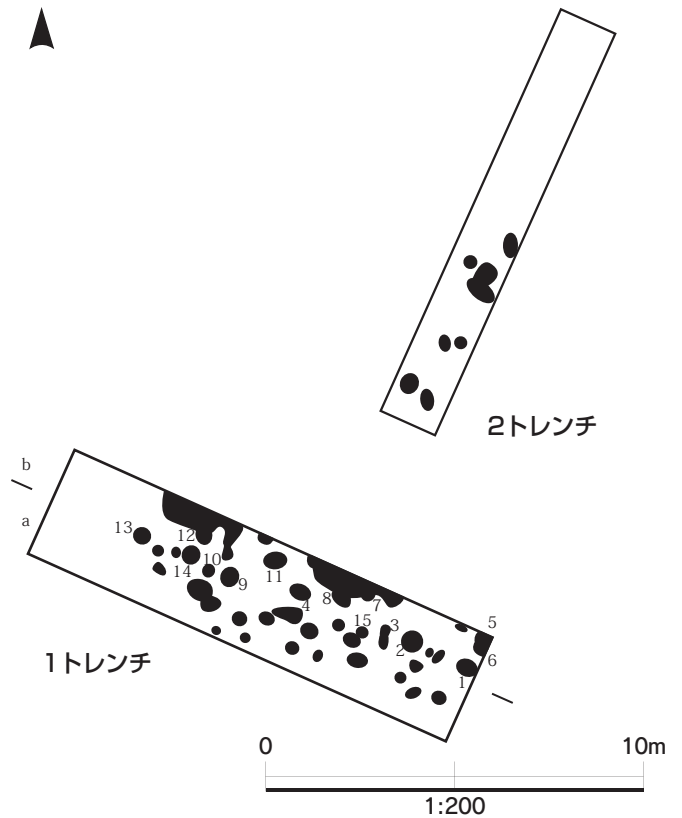
平成29年6月27、29日、建設予定地内にトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。1トレンチ

a・bの基本層序は①層黒褐色砂質土(表土:層厚20cm)、②層黒褐色粘質土(クロボク:10~20cm)、

黄褐色土(地山)である。2トレンチでは①層黒褐色砂質土(表土:30cm)、②層黒褐色粘質土(クロボク a:60cm)、

③層黒褐色粘質土(クロボク b:50cm)、地山となっており、南側から北の谷部へとゆるやかに傾斜する。

遺構は両トレンチで柱穴48基、風倒木痕2箇所検出。柱穴は15基を半截したが掘り方が不明瞭なものが多く、柱痕及び遺物の発見には至らなかった。また掘り方が明瞭な柱穴数基はII層上部から切り込んでいたため比較的新しい時期のものとして判断し、写真撮影・簡易測量を行い調査を終了した。なお平成9、10年に隣接地にて確認調査を実施したが、遺構・遺物の発見には至っていない。



第10図 原口遺跡トレンチ配置図 (s=1/200)

遺構名	埋土	深度 (cm)	遺物	備考
pit1	II層	10	なし	
pit2	III層類似	20	なし	
pit3	II層	10	なし	植物痕
pit4	II層	40	なし	
pit5	III層類似	56	なし	表土から切り込む
pit6	II層	30	なし	植物痕
pit7	II層	30	なし	風倒木を切る。植物痕
pit8	II層	16	なし	風倒木を切る。植物痕
pit9	II層	36	なし	
pit10	表土類似	70	なし	II層上部から切り込む
pit11	II層	30	なし	地山ブロック (φ4cm) が少量混じる
pit12	II層	20	なし	地山ブロック (φ1cm) が少量混じる
pit13	III層類似	16	なし	地山ブロック (φ1cm) が少量混じる
pit14	II層	40	なし	
pit15	III層類似	38	なし	表土から切り込む

表1 原口遺跡遺構観察表



写真8 原口遺跡1 トレンチ a (西から)

写真9 原口遺跡1 トレンチ b (東から)

写真10 原口遺跡2 トレンチ (南から)



写真11 原口遺跡 pit5 (西から)

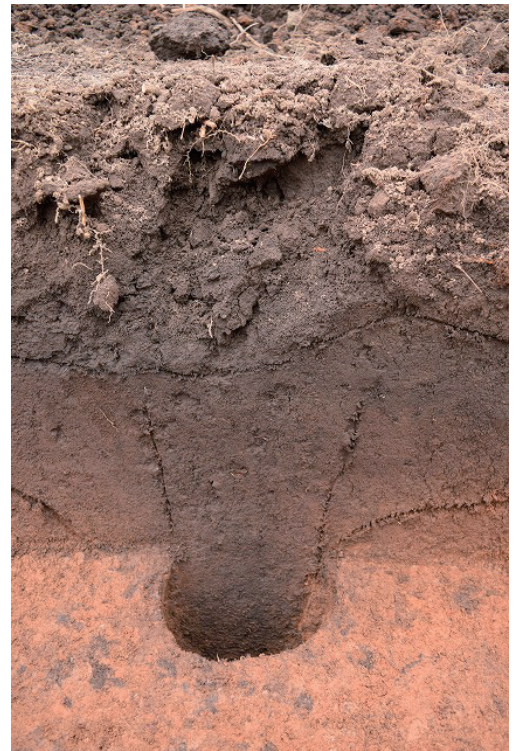
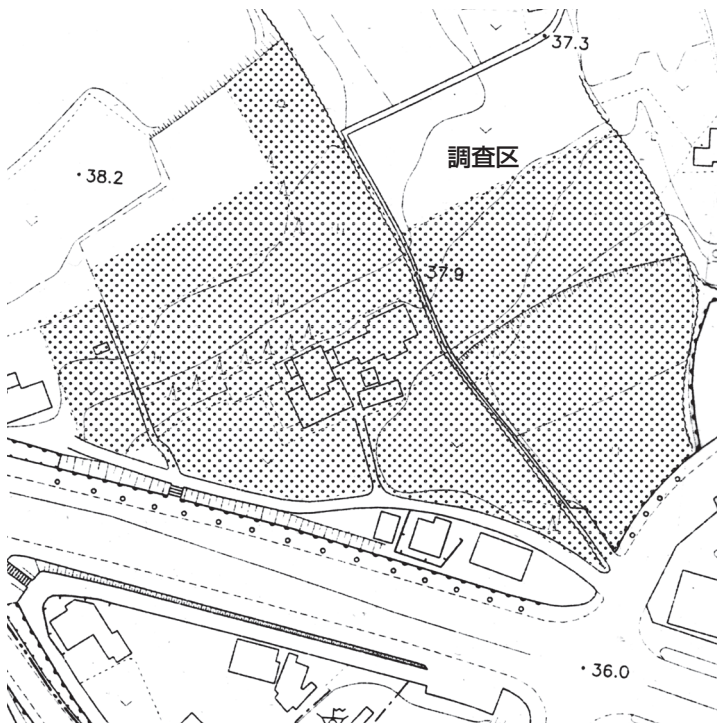


写真13 原口遺跡 pit10 (北から)



写真12 原口遺跡2 トレンチ北側 東壁

(4) 柳ヶ迫池東遺跡・勸助野地遺跡



第 11 図 柳ヶ迫池東遺跡・勸助野地遺跡調査区位置図



写真 14 柳ヶ迫池東遺跡・勸助野地遺跡  
11 トレンチ遺構検出状況

平成 29 年 6 月 12 日、中津市大字相原 2865-19 外における、太陽光発電所設置に伴う文化財保護法 93 条第 1 項の届出が提出された。約 18,000㎡に太陽光パネルを設置するものである。

平成 29 年 7 月 18 日・8 月 28 日、発電施設が設置される範囲を中心に計 18 本のトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。調査の結果、1・2・5～11、14～18 トレンチにて柱穴状遺構・土坑を確認した。遺構密度は 2・5 トレンチで比較的高く、それ以外のトレンチでは低い。遺物は 5・6 トレンチにて包含層中から出土し、14 トレンチでは P 1 から小片 1 点が出土した。

太陽光パネル基礎杭は、直径 10cm、深さ約 1.5m のスクリー杭で、これを約 5,200㎡のパネル設置範囲に合計 12㎡打ち込むものである。地下への影響は全体の 0.2%と低く、杭が遺構に影響を与える可能性は低いと考えた。杭を抜く際もネジを逆回転するように引き抜くタイプのもので、撤去の際の遺構への影響度も低く、本調査の必要はないと判断した。



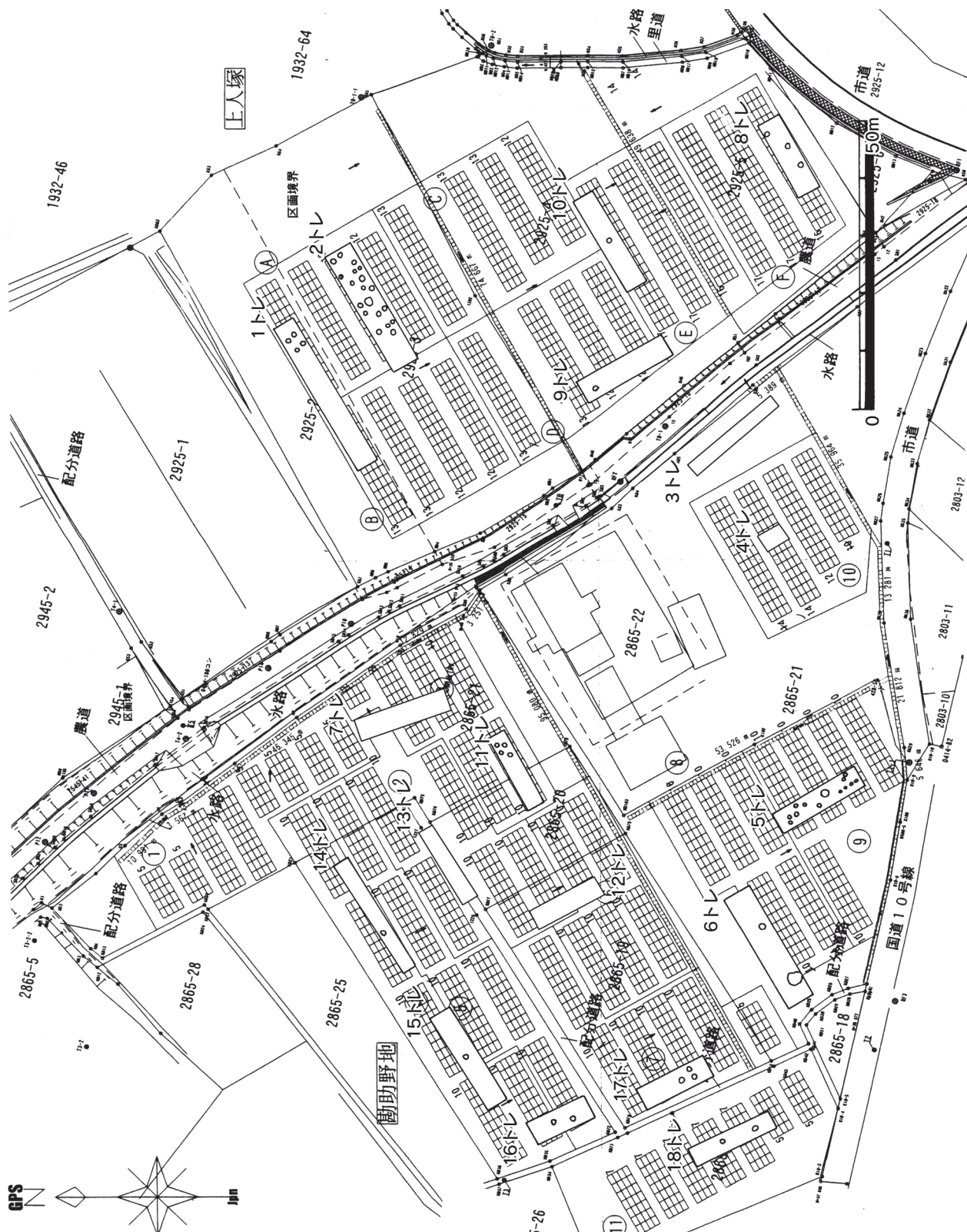
写真 15 柳ヶ迫池東遺跡・勸助野地遺跡  
17 トレンチ土坑半裁



写真 16 柳ヶ迫池東遺跡・勸助野地遺跡  
18 トレンチ東壁



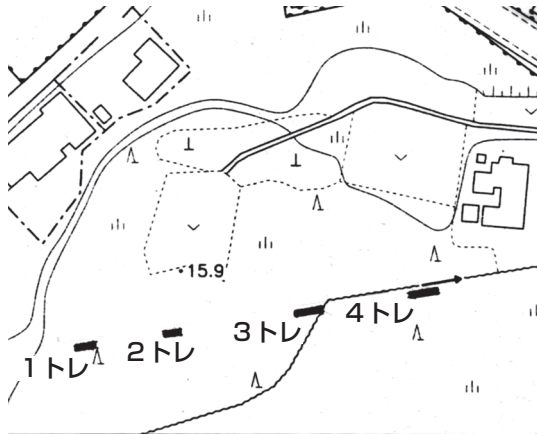
写真 17 柳ヶ迫池東遺跡・勸助野地遺跡  
2 トレンチ作業風景



第12図 柳ヶ迫池東遺跡・勘助野地遺跡トレンチ配置図 (S=1/1,000)



(5) 田代遺跡



第 13 図 田代遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)



写真 18 田代遺跡 1 トレンチ (東から)

平成 29 年 4 月 19 日、中津市大字犬丸 1632 番地 1 外にて農業用水路改良に伴う文化財保護法 94 条第 1 項の通知が提出された。今年度の工事は延長約 206 m で、調査対象地は水路に並行して敷設される幅 3 m の工事用道路部分である。確認調査は平成 29 年 10 月 3 日から 10 月 5 日までで、西から東に向かって 4 本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認をおこなった。基本層序は①層：表土層（厚さ 20～30cm、暗灰褐色砂質土層）、②層：自然堆積土層（厚さ 25～45cm、クロボク土層、黒色弱粘質土層）で、その直下が基盤層（暗黄灰色弱粘質土層）となる。主な遺構は 1 トレンチで確認し土坑 1 基のみで、他は近代以降と考えられる溝状の小遺構 1 条とピット数基である。このうち、土坑からは古墳時代の所産と考えられる須恵器や土師器（飯蛸壺）が出土している。

なお、確認したすべての遺構は今回の調査時に掘削が終了し、必要に応じて図面・写真による記録保存を行った。



写真 19 田代遺跡  
1 トレンチ土坑 (南から)

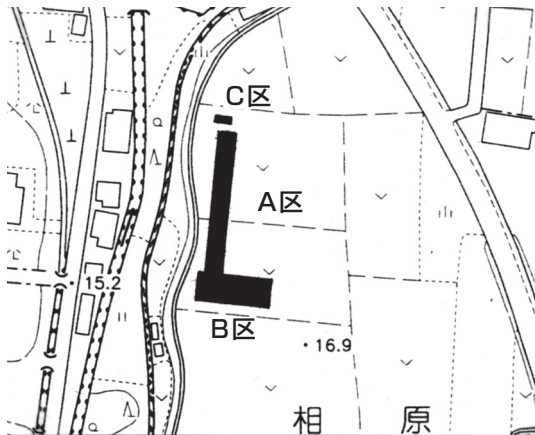


写真 20 田代遺跡  
3 トレンチ (東から)



写真 21 田代遺跡  
4 トレンチ (西から)

## (6) 三口遺跡



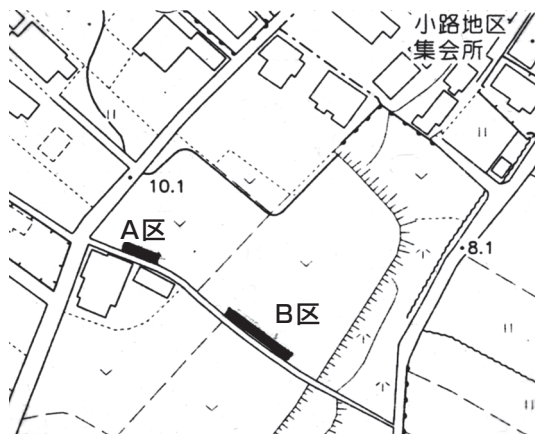
第 14 図 三口遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)



写真 22 三口遺跡Cトレンチ (北から)

平成 28 年 12 月 2 日、中津市大字相原字万五郎 3303 番外にて店舗建設に伴う文化財保護法 93 条第 1 項の届出が提出された。開発面積は約 6,188㎡で、建築面積は 2,183㎡で、現況地盤から 1.0 m の深さに建物の基礎コンクリートを打設するものである。確認調査は平成 29 年 6 月 5 日に実施し、5 本のトレンチを設定し遺構・遺物の有無の確認をおこなった。深さ 1.0 m 前後で基盤層 (明黄灰色弱粘質土層) に達し、大溝や柱穴列・集石遺構を検出し、弥生土器・土師器・須恵器などの遺物を出土した。このため、建物建築部分を中心に本調査を実施することとなった。

## (7) 定留遺跡



第 15 図 定留遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)



写真 23 定留遺跡トレンチ (東から)

平成 29 年 6 月 8 日、中津市大字定留 256-1 外にて市道拡幅に伴う文化財保護法 94 条第 1 項の通知が提出された。今年度の工事は延長約 105 m で、側溝を含めた幅員 6.0 m の道路を整備するものである。試掘調査は 6 月 16 日に工事予定地内に 3 本のトレンチを設定して、遺構・遺物の有無の確認をおこなった。深さ 20cm ~ 40cm で基盤層 (茶褐色弱粘質土層) に達し、大型土坑 1 基・不整形土坑 1 基・ピット数基などを検出した。このため遺構の集中部分について本調査を実施することとなった。

# 第3章 中近世城館確認調査 (5)

## 1. 今年度の調査概要

平成25年度から国庫補助を受け市内の城館の確認調査を行っている。県内の中近世城館の確認調査は大分県教育委員会が平成7年度～15年度まで既に実施している（以下、県調査）。調査が手薄であった旧下毛郡部を中心に市内全域の詳細不明城館の探索及び既知の城館の再確認を行い、開発への備えや重要城館の指定などを目指すことを目的に本事業は進められている。

## 2. 調査の経過

事業開始から4年目を迎えた今年度は5月と10月に中津市城館総合調査委員会を開催した。



第16図 中近世城館報告箇所位置図 (S = 1/200,000)

今年度1月末までに行った確認調査（踏査）は34箇所。この内、遺構の可能性のある地形を確認した耶馬溪町大字大野地区、山国町守実地区、大字中原地区、耶馬溪町大字山移地区、大字永添地区、山国町大字中摩地区の報告を以下に行う。

### ①耶馬溪町大字大野地区

平成29年5月26日、耶馬溪町大字大野字城ヶ平の踏査を行った。地元では「城ヶ平」は「じょうごひら」と呼称され、美しい山容から「津民富士」とも呼ばれている。県道から最高所へ45分で到着する。最高所は特に手に加えられていない尾根で、北側に幅4m、長さ8m程度の堀切を1本確認した。その北側は緩やかな尾根で人工的な平坦面はない。さらに北には人口的な造成であるのか不明確な2段程度の平場があった。最高所の東にも小曲輪が存在している。登山ルート麓の大森家墓地には室町時代前半期と推定される一石五輪塔が像立されていた。



第17図 耶馬溪町大字大野字城ヶ平位置図



写真24 字城ヶ平堀切

### ②山国町守実地区

平成29年6月5日、山国町守実の狩宿地区の踏査を行った。当地区の字伊勢山に遺構があることを調査委員の中村修身委員長から報告を受けてのものである。弁才天が祭られている伊勢山丘陵東先端部に平場が見られる。その西には上端幅8m、下端幅2m程度の堀切状の地形が、南東斜面には小平場が3つ認められた。参道の鉄製階段を下ると麓に戦国期と見られる宝篋印塔の笠、基礎残欠が置かれている。『正任記』文明10（1478）年9月25日記（山口県史史料編中世所収）には「山国溝部郷狩宿城」と認められることから、本城郭はこの文書に記載のある「狩宿城」である可能性もある。



第18図 山国町守実字伊勢山位置図



写真25 字伊勢山堀切状の地形

### ③大字中原地区

平成 29 年 8 月 17 日、中原字上屋敷・中屋敷の踏査を行った。両字に土塁の残欠が認められ、字中屋敷の太陽光発電施設周辺は比較的残りが良い。発電施設西側は幅 4 m、深さ 1.5 ～ 2m 程度の堀跡が残る①。周辺には方形区画も認められた。



第 19 図 大字中原字上屋敷地区位置図



写真 26 字上屋敷横堀

### ④耶馬溪町大字山移地区

平成 30 年 1 月 19 日、耶馬溪町大字山移字鷹丸地区の踏査を行った。この地は「鷹丸城跡」が周知されているが、県調査において詳細不明とされていた城跡である。大分市の城郭愛好家から鷹丸城跡推定地に遺構が認められるとの情報とその略図がもたらされ、それを元に現地を確認した。

標高 380 m 程度の最高所に主郭がある。主郭は細尾根を人工的に加工しており、若干の起伏が認められる。主郭北に一段、西に一段小曲輪がある。北の曲輪は東側に削り残しの土塁状の高まりがある。その曲輪から北に落ちる尾根に馬蹄形状の堀切が 2 条認められる。東斜面には良好に遺存する畝状堅堀が 8 本構築されていた。主郭南にも小規模な曲輪がある。それをさらに進むと高さ 50cm ほどの段差のある箇所があり、ここが城の南限と考えられる。



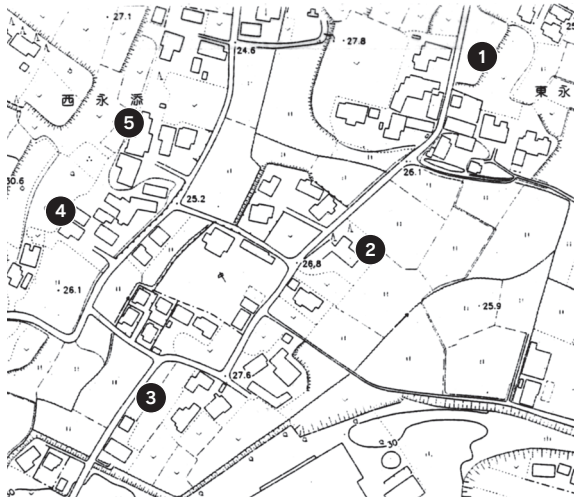
第 20 図 耶馬溪町大字山移字鷹丸位置図



写真 27 字鷹丸畝状堅堀

### ⑤大字永添地区

平成 30 年 1 月 25 日、明治 21 年の地目色分け図に土塁状の区画が認められる大字永添小字中尾前周辺の踏査を実施した。西側の小字中尾前周辺が踏査範囲の最高所であり、県道万田四日市線から入った左手の小字外屋敷に土塁①がある。一部良好に遺存し、土師質土器を含むため土塁と思われる。そこから南へ進むと、小字玉迫の屋敷北側に土塁残欠②があり、最も南にも土塁残欠③がある。西側の谷を越えた地点の小字中尾屋敷には里道の細道横に土塁④が構築されている。北へ進むと土塁と水路(堀)がセットをなす箇所⑤ある。最高所の中尾前周辺に中心施設が存在したのであろうか。



第 21 図 大字永添字中尾前他位置図



写真 28 字中尾前土塁

### ⑥山国町中摩地区

平成 30 年 1 月 29 日、山国町中摩字鳶ヶ城・字横道を踏査した。鳶ヶ城は、谷を挟んで向かいにある一ツ戸城と至近距離にあり、一ツ戸城の出城として地元では認識されている。踏査の結果、字鳶ヶ城の尾根突端に遺構は確認できなかった。しかし、現在は樹木が林立し眺望が効かないものの、一ツ戸城だけではなく山国町方面も望むことのできる良地であった。突端にたどり着く手前のピークに帯曲輪状の地形があるが判然としない。むしろ、中摩下公民館横の林道から登りついた字横道の尾根に切岸や堀切状の地形があるため、こちらの方が遺構の可能性が高いのかもしれない。



第 22 図 山国町大字中摩字鳶ヶ城他位置図



写真 29 字横道堀切状の地形

## 第4章 長者屋敷官衙遺跡

### 1. これまでの調査のまとめ

#### 遺跡の立地

中津市の南東部は下毛原台地と呼ばれる洪積台地となっている。洪積台地上には、南西から北東方向に多数の小規模な谷地形が発達しており、台地上は起伏の多い地形となっている。長者屋敷官衙遺跡の立地もこうした地形を利用し、遺跡の東側と西側は一段低い谷地形となっている。律令の倉庫令に定められた「倉は、みな高く乾燥した処に於くこと。周圍に池渠を開くこと。」という条件を満たす土地を選定したと考えられる。

#### これまでの調査歴（第1図、表1）

平成7年度から13次にわたる調査の結果、全体形が分かる建物で総柱建物10棟、側柱建物6棟が見つかっている。このうち、3、4、10、16号建物以外は少なくとも1度は同位置で建替えが行われている。総柱建物の13号建物は礎石建ち建物で、掘立柱建物→掘立柱建物→礎石建物と2度の建替えが行われている。

表2 長者屋敷官衙遺跡調査歴

次	年度	面積 (㎡)	主な遺構	調査区
1	平成7年度	8,000	S B - 1 ~ 11、区画施設 (溝状・柵状)	1区
2	平成8年度	5,000	南限の溝	2区
3	平成12年度	3,300	不整形大型土坑	3区
4	平成19年度	500	S B - 5の続き、S B - 12	4区
5	平成20年度	350	S B - 13 (礎石建物)、14、北限の溝、東限の溝	5・6区
6	平成21年度	1,280	北限の溝の続き	7区
7	平成22年度	85.5	中世遺構	8・9区
8	平成23年度	464	古代建物2棟	10区
9	平成24年度	1,600	古墳時代中期竪穴建物2軒	11・12区
10	平成25年度	400	S B - 15・16・17・18、区画施設 (溝状)	13区
11	平成26年度	230	南限の溝の続き	14区
12	平成27年度	450	中世遺構	15区
13	平成28年度	50	S B - 5、S D - 34、S B - 13南溝、S A - 27の再確認調査	申請地①~④
14	平成29年度	50	S A - 27の再確認調査	

### 2. 平成29年度の調査結果（第23図 写真30、31）

平成28年度調査では、それまで柵か柱列とされていたS A - 27の北辺について調査を行い、西側に2間かそれ以上展開する建物であったことが分かっている。調査では北から2つ目の柱掘り方を検出したが、疑問が残る結果となっている。これまで正倉院で確認されている側柱建物の梁行は3間であるためである。2間から先は台地がカットされているために確認できなかった。今年度は南側を調査し、規模を確定させる調査を行った。調査区をS A - 27の一番南から2つ目に設定し西側に広げた。調査の結果、これまでS A - 27の南端の柱掘り方は別遺構で、2つ目の梁方向に連続する柱掘り方を確認

した。しかし、西側に2間は確認できたが、その先は中世八並城跡の堀が掘られており確認できないため、委員会の意見を受けて、調査区を拡張して2間目の柱掘り方から北側に5 m<sup>2</sup>広げて柱掘り方が連続するか否かを確認した。結果、柱掘り方は確認できなかった。このため、建物は桁行7間、梁行2間以上であることが分かった。八並城跡の堀は史跡西側の道路部分にまで広がると考えられるため、梁行は確定できない。その他、平成7年度調査の1区で検出している区画溝SD-39の続きを確認し、拡張部分でも延長が確認できた。

#### < 参考文献 >

中津市教育委員会『長者屋敷遺跡』中津市文化財調査報告書第26集 2001

中津市教育委員会『長者屋敷官衙遺跡4～11次調査』中津市文化財調査報告書第73集 2015

中津市教育委員会『市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査(3) 長者屋敷官衙遺跡 市内遺跡発掘調査概報9』中津市文化財調査報告第75集 2016

中津市教育委員会『市内遺跡試掘確認調査 相原廃寺 長者屋敷官衙遺跡 中近世城館確認調査(4)』市内遺跡発掘調査概報10』中津市文化財調査報告第81集 2017

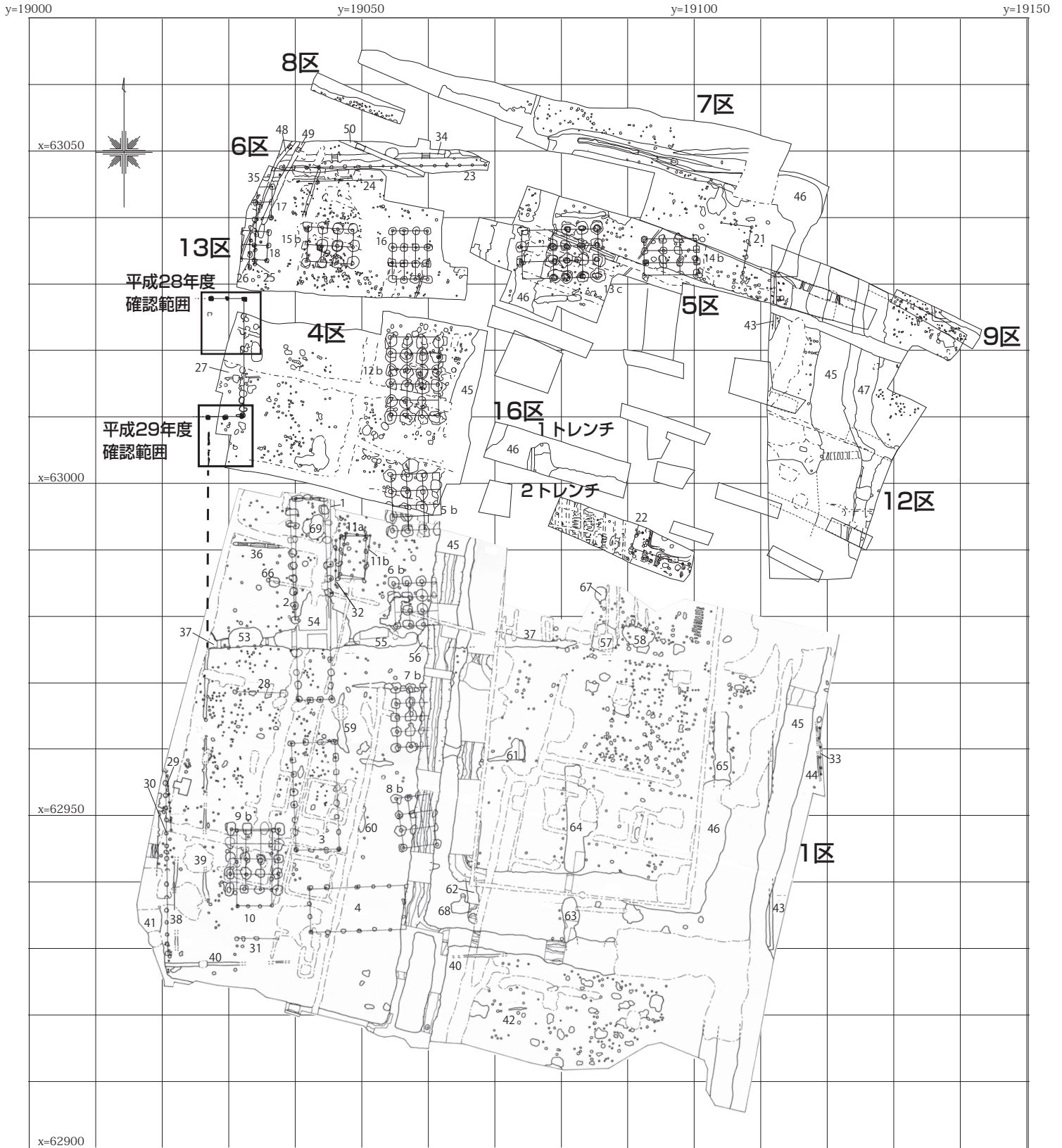


写真30 長者屋敷官衙遺跡  
梁行柱掘り方(東から)



写真31 長者屋敷官衙遺跡  
調査区全景(南から)





第 23 図 長者屋敷官衙遺跡 正倉院遺構分布図 (S = 1/800)

# 報告書抄録

書名	市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査 (5) 長者屋敷官衙遺跡
副書名	市内遺跡発掘調査概報
巻次	11
シリーズ名	中津市文化財調査報告
シリーズ番号	第86集
編著者名	浦井 直幸 丸山 利枝 衛藤 美紀 末永 弥義
編集機関	中津市教育委員会
所在地	〒 871-8501 大分県中津市豊田町 14 番地 3 Tel:0979-22-1111
発行年月日	2018年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積	調査原因	
市内遺跡試掘確認調査	おきだい ちくじょうり ちく 沖代地区 条里跡	おおい けん なか つ し おお あ ぎ な が そ え あ ぎ 大分県中津市大字永添字 市木 229 番 2 外	44203	203007	33° 57' 73"	131° 19' 38"	20160712	15	集合住宅建設
	おきだい ちくじょうり ちく 沖代地区 条里跡	おおい けん なか つ し おお あ ぎ な が て あ ぎ 大分県中津市大字金手字 平ツ丸 10 番 13	44203	203007	33° 58' 39"	131° 20' 44"	20170620	30	店舗建設
	おきだい ちくじょうり ちく 沖代地区 条里跡	おおい けん なか つ し おお あ ぎ な が ち ょう 大分県中津市沖代町 1 丁目 443 番 1 外	44203	203034	33° 58' 72"	131° 20' 17"	20170809	118	宅地造成
	なか つ じ ょう か ま ち い せ き 中津 城 下 町 遺 跡	おおい けん なか つ し あ ぎ し ん じ ょう 大分県中津市字新魚町 1899 番	44203	203002	33° 60' 25"	131° 18' 12"	20170424	16	個人住宅
	なか つ じ ょう か ま ち い せ き 中津 城 下 町 遺 跡	おおい けん なか つ し 大分県中津市 563 - 1 付 近	44203	203002	33° 60' 70"	131° 19' 10"	20170911	17	市道拡幅
	はるぐち い せ き 原口遺跡	おおい けん なか つ し さんこう はるぐち 大分県中津市三光原口 702 番 1	44203	203157	33° 54' 92"	131° 20' 03"	20170622	62	保育施設建設
	やなぎ ざ こ い け ひ が し い せ き 柳ヶ追池東遺跡・ かんすけの ち い せ き 勸助野地遺跡	おおい けん なか つ し おお あ ぎ あ い は ら 大分県中津市大字相原 2865 - 19 外	44203	203066 203064	33° 35' 35"	131° 14' 11"	20170718 20170828	330	太陽光発電 施設設置
	たしろ い せ き 田代遺跡	おおい けん なか つ し おお あ ぎ い む ま る 大分県中津市大字犬丸 1632 番地 1 外	44203	203145	33° 56' 94"	131° 24' 93"	20171003 20171005	32	農業用水路 改良
	みくち い せ き 三口遺跡	おおい けん なか つ し おお あ ぎ あ い は ら 大分県中津市大字相原 3360 - 3 外	44203	203041	33° 57' 00"	131° 18' 73"	20170605	144	店舗建設
	さだのみ い せ き 定留遺跡	おおい けん なか つ し おお あ ぎ さ だ の み 大分県中津市大字定留 256 番 1	44203	203034	33° 34' 10"	131° 12' 24"	20170616	26	市道新設
中近世城館調査	や ば け い ま ち おお あ ぎ おお の ち くの ち くの 耶馬溪町大字大野地区	おおい けん なか つ し や ば け い ま ち おお あ ぎ おお の ち くの ち くの 大分県中津市耶馬溪町大字大野	-	-	33° 46' 82"	131° 09' 81"	20170526	-	確認調査
	やまくにまちもりぎねちく 山国町守実地区	おおい けん なか つ し やまくにまちもりぎねちく 大分県中津市山国町守実	-	-	33° 40' 43"	131° 03' 37"	20170605	-	確認調査
	おおあぎなかなばるちく 大字中原地区	おおい けん なか つ し おお あ ぎ な かなばるちく 大分県中津市大字中原	-	-	33° 57' 80"	131° 21' 77"	20170817	-	確認調査
	たかまるじょうあつ 鷹丸城跡	おおい けん なか つ し や ば け い ま ち おお あ ぎ や ま う つ り 大分県中津市耶馬溪町大字山移	44203	203257	33° 41' 47"	131° 14' 54"	20180119	-	確認調査
	おおあぎながそえちく 大字永添地区	おおい けん なか つ し おお あ ぎ な が そ え ちく 大分県中津市大字永添	-	-	33° 57' 12"	131° 20' 38"	20180125	-	確認調査
	やまくにまちなかまちく 山国町中摩地区	おおい けん なか つ し やまくにまちなかまちく 大分県中津市山国町中摩	-	-	33° 41' 91"	131° 07' 02"	20180129	-	確認調査

ちょうじや やしきかん が いせき 長者屋敷官衙遺跡		おおいたげんなかつ し おおあざながそえ 大分県中津市大字永添 1472		44203	203119	33° 34' 04"	131° 12' 17"	20180207 20180308	50	確認調査
所収遺跡名		種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
市内遺跡 試掘確認調査	おきだい ち くじょうり あと 沖代地区 条里跡	条里	弥生・古墳・古 代・中世・近世	溝状遺構	弥生土器	複数の溝状遺構				
	おきだい ち くじょうり あと 沖代地区 条里跡	条里	弥生・古墳・古 代・中世・近世	なし	なし	なし				
	おきだい ち くじょうり あと 沖代地区 条里跡	条里	弥生・古墳・古 代・中世・近世	溝・土坑	なし	なし				
	なかつ じょう かまち いせき 中津 城下町遺跡	城下町	近世	なし	なし	なし				
	なかつ じょう かまち いせき 中津 城下町遺跡	城下町	近世	土坑・柱穴	陶磁器	なし				
	はるぐち いせき 原口遺跡	包蔵地	弥生・古墳	柱穴	なし	柱穴のプランは不明瞭				
	やなぎさこいけひがし いせき 柳ヶ池東遺跡・ かんすけの ち いせき 勘助野地遺跡	包蔵地	弥生・古墳/ 縄文・古墳	包蔵地/墳墓	弥生土器	なし				
	たしろ いせき 田代遺跡	包蔵地	弥生・古墳・ 中世	柱穴・土坑	須恵器・土師器	なし				
	みくち いせき 三口遺跡	集落	弥生・古墳・ 古代	溝・土坑	須恵器・土師器	なし				
	さだのみ いせき 定留遺跡	集落・館跡	弥生・古墳・ 中世	柱穴	土師器	なし				
中近世城館 調査	やま けい まち おおあざ おお 耶馬溪町大字大 野地区	-	-	土塁・堀	なし	小字城ヶ平に堀切あり				
	やまくに まち もり ぢね ち く 山国町守実地区	-	-	堀切	なし	小字伊勢山に遺構あり				
	おおあざ なかばら ち く 大字中原地区	-	-	横堀	なし	小字上屋敷・中屋敷に遺構あり				
	たかまる じょう あと 鷹丸城跡	城館跡	中世	畝状堅堀・堀切	なし	畝状堅堀8本を確認				
	おおあざ なかえ ち く 大字永添地区	-	-	土塁・堀	なし	小字中尾前・中尾屋敷に遺構あり				
	やまくに まち なか ま ち く 山国町中摩地区	城館跡	中世	横堀	なし	小字横道に遺構状の地形あり				
ちょうじや やしきかん が いせき 長者屋敷官衙遺跡	官衙跡	古代	側柱建物区画溝	土師器	SA-27の規模確認					
要 約	上池永遺跡で複数の柱穴を検出した。三口遺跡では柱穴・溝状遺構を検出した。中近世城館調査は複数の箇所、土塁や堀跡を新たに確認した。									

市内遺跡試掘確認調査  
中近世城館確認調査(5)  
長者屋敷官衙遺跡

市内遺跡発掘調査概報 11

中津市文化財調査報告 第86集

発行日 2018年3月31日

発行 中津市教育委員会

印刷 高橋印刷所